

9 がん(案)(H.23.9.8版)

〈指標の達成状況〉

A. 目標値に達した	0
B. 目標値に達していないが改善傾向にある	1
C. 変わらない	0
D. 悪くなっている	1

※各指標の達成状況については、別添シート参照

〈総括評価〉

○果物摂取については悪くなっている。

○がん検診受診者数は増加し、一部検診については目標値に達しているものの、その後作成されたがん対策推進基本計画の目標値(平成23年度末までに受診率を50%にする)には遠く及ばない。

〈指標に関連した施策〉

○健康増進事業(がん検診)

○がん対策基本法(がん対策推進基本計画)

○がん診療連携拠点病院制度

○女性特有のがん対策の推進

〈今後の課題〉

がんの予防、早期発見等、それぞれについて、医療技術に対する科学的エビデンスをより積極的に作成することが必要である。エビデンスが確立されたものについては、介入の方法についてもエビデンスを作成し、それに基づいて対策を行っていくことが必要である。これらを系統的に推進する体制が必要である。

健康日本21の目標値に対する直近値に係るデータ評価シート(案) (H.23.9.8版)

がん 分野

記載留意事項・・・各項目の冒頭には、見出しとして分析結果、課題等を要約として記載してください。
詳細なデータ解析をした場合は、解析結果や二次資料を添付してください。

分野:がん			
(再掲)目標項目:9.1 たばこ対策の充実			
目標項目:4.1 喫煙が及ぼす健康影響についての十分な知識の普及(知っている人の割合)			
目標値	策定時のベースライン値 (H10年度喫煙と健康問題に関する実態調査)	中間評価 (H15年国民健康・栄養調査)	直近実績値 (H20年国民健康・栄養調査)
a)肺がん 100%	84.5%	87.5%	87.5%
b)喘息 100%	59.9%	63.4%	62.8%
c)気管支炎 100%	65.5%	65.6%	65.1%
d)心臓病 100%	40.5%	45.8%	50.7%
e)脳卒中 100%	35.1%	43.6%	50.9%
f)胃潰瘍 100%	34.1%	33.5%	35.1%
g)妊娠に関連した異常 100%	79.6%	83.2%	83.5%
h)歯周病 100%	27.3%	35.9%	40.4%
目標項目:4.2 未成年者の喫煙をなくす(喫煙している人の割合)			
目標値	策定時のベースライン値 (H8年度未成年者の喫煙行動に関する全国調査)	中間評価 (H16年度未成年者の喫煙及び飲酒行動に関する全国調査)	直近実績値 (H20年度未成年者の喫煙及び飲酒行動に関する全国調査)
a)男性(中学1年) 0%	7.5%	3.2%	1.5%
b)男性(高校3年生) 0%	36.9%	21.7%	12.8%
c)女性(中学1年) 0%	3.8%	2.4%	1.1%
d)女性(高校3年生) 0%	15.6%	9.7%	5.3%
目標項目:4.3 公共の場及び職場における分煙の徹底及び効果の高い分煙に関する知識の普及(分煙を実施している割合)(知っている人の割合)			
目標値	策定時のベースライン値 (H12年地方自治体庁舎等における禁煙・分煙の実施状況調査)	中間評価 (H16年地方自治体庁舎等における禁煙・分煙の実施状況調査)	直近実績値(参考値) (H22年度厚生労働科学研究 大和班)
a)公共の場 100%	都道府県 89.4% 政令市等 95.9% 市町村 50.7% 保健所 95.5%	都道府県 100% 政令市等 100% 市町村 89.7% 保健所 100%	・47都道府県中23が本庁舎内建物内禁煙(約49%) ・46都道府県庁所在地及び5政令指定都市中10が本庁舎内建物内禁煙(約20%) ・東京23区中1が本庁舎内禁煙(約4%)
目標値	策定時のベースライン値 (H9年労働者健康状況調査)	中間評価 (H14年労働者健康状況調査)	直近実績値 (H19年労働者健康状況調査)
b)職場 100%	40.3% (47.7%(喫煙対策に取り組んでいる))	55.9% (59.1%(喫煙対策に取り組んでいる))	- (75.5%(喫煙対策に取り組んでいる))
目標値	策定時のベースライン値 (なし)	中間評価 (H17年分煙の知識に関する全国調査)	直近実績値
c)効果の高い分煙に関する知識の普及 100%	-	男性 77.4% 女性 79.0%	

目標項目:4.4 禁煙支援プログラムの普及(禁煙支援プログラムが提供されている市町村の割合)			
目標値	策定時のベースライン値 (H13年度地域保健・老人保健事業報告)	中間評価 (H15年度地域保健・老人保健事業報告)	直近実績値 (H20年度地域保健・老人保健事業報告)
全国 100%	32.9% (27.8%)	39.7% (32.2%)	- (38.9%)

目標項目:4.5 喫煙をやめたい人がやめる 参考[喫煙率、禁煙希望者の割合]			
目標値(指標)	策定時のベースライン値 (なし)	中間評価 (H15年国民健康・栄養調査)	直近実績値 (H21年国民健康・栄養調査)
喫煙率	-	男性 46.8% 女性 11.3%	男性 38.2% 女性 10.9%
禁煙希望者の割合	-	男性 24.6% 女性 32.7%	男性 31.7% 女性 42.4%
コメント			
(1)直近値に係るデータ分析 ・直近値が、目標値に対してどのような動きになっているか、留意点を含み分析	経年変化を踏まえたベースライン値と現状の分析、特徴(性、年齢、項目別の分類など)を踏まえた分析		
	○どの項目も目標値は達成できていない。すすんではいるが遅々としている。		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。			
(3)その他データ分析に係るコメント			
(4)最終評価 ・最終値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。			
(5)今後の課題及び対策の抽出 ・最終評価を踏まえ、今後強化・改善等すべきポイントを簡潔に記載	○なかなか進まないのを努力不足のせいにするべきでない。なかなか進まないことは解決が難しい問題であるということを意味しているので、これまでとは全く異なるアプローチ、抜本的な対策をすべきと考える。		

分野:がん			
(再掲)目標項目:9.2 食塩摂取量減少			
目標値	策定時のベースライン値 (H9年国民栄養調査)	中間評価 (H16年国民健康・栄養調査)	直近の実績値 (H21年国民健康・栄養調査)
成人 10g/日未満	13.5g/日	11.2g/日	10.7g/日
コメント			
経年変化を踏まえたベースライン値と現状の分析、特徴(性、年齢、項目別の分類など)を踏まえた分析			
(1)直近値に係るデータ分析 ・直近値が、目標値に対してどのような動きになっているか、留意点を含み分析	○有意に減少している(片側P値<0.001)。		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。			
(3)その他データ分析に係るコメント	○男性より女性で低く、女性では9.9g/日まで減少。 ○男女ともいずれの年代でも減少している。 ○直近値では、男女とも60歳代で最も高く、男性で12.4g、女性で10.5gである。 ○食塩の供給源は調味料が約7割を占め、この10年間で変化はない。		
(4)最終評価 ・最終値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。			
(5)今後の課題及び対策の抽出 ・最終評価を踏まえ、今後強化・改善等すべきポイントを簡潔に記載	○これ以上の減少については、個々人の努力だけでは限界があることから、食事内容や量の調整ができるよう栄養成分表示の義務化や、食品に含まれる食塩含有量を減らすための企業努力を促す環境介入も必要である。		

分野:がん			
(再掲)目標項目:9.3 野菜摂取量の増加			
目標値	策定時のベースライン値 (H9年国民栄養調査)	中間評価 (H16年国民健康・栄養調査)	直近の実績値 (H21年国民健康・栄養調査)
成人 350g以上	292g/日	267g/日	295g/日
コメント			
(1)直近値に係るデータ分析 ・直近値が、目標値に対してどのような動きになっているか、留意点を含み分析	経年変化を踏まえたベースライン値と現状の分析、特徴(性、年齢、項目別の分類など)を踏まえた分析		
	○変わらない(片側P値=0.28)。		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。			
(3)その他データ分析に係るコメント	○直近値では、20歳代で最も低く、242gである。		
(4)最終評価 ・最終値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。			
(5)今後の課題及び対策の抽出 ・最終評価を踏まえ、今後強化・改善等すべきポイントを簡潔に記載	<p>○毎日野菜料理をたっぷり(1日小鉢5皿、350g程度)食べることについて「するつもりはあるが、自信がない」と回答した人の割合は29.0%、「するつもりがない」は6.1%(平成21年国民健康・栄養調査結果)であり、対象者の状況に合わせた支援が必要である。</p> <p>○平均ではなく、目標値の達成割合で見るべきではないか。また、達成割合が低いセグメントを抽出し、重点的に対策を立てることが重要であるとする。</p>		

分野:がん

目標項目:9.4 1日の食事において、果物類を摂取している者の増加(摂取している人の割合)

目標値	策定時のベースライン値 (H9年国民健康・栄養調査)	中間評価 (H16年国民健康・栄養調査)	直近実績値 (H21国民健康・栄養調査)
成人 60%以上	果物類を摂取していない者の割合 29.8%	39.8%	39.0%
	果物類を100g以上摂取している者の割合 47.9%	42.5%	41.0%
	果物類を200g以上摂取している者の割合 23.9%	20.6%	19.6%
	果物類の平均摂取量 125.3g	109.0g	105.6g

コメント

経年変化を踏まえたベースライン値と現状値の分析,特徴(性、年齢、項目別の分類など)を踏まえた分析

(1)直近値に係るデータ分析
・直近値が、目標値に対してどのような動きになっているか、留意点を含み分析

○国民健康・栄養調査のデータを再計算した数値に基づく、策定時のベースライン値が70%であり、データと目標値が不正確である。正しいデータに基づいて評価すべきであるが、目標値も異なってしまうので、複数の指標による評価を行うこととした。
○代替指標として、果物類(ジャム、果汁を除く)を摂取していない人の割合、100g以上摂取している者の割合、200g以上摂取している者の割合、摂取量の平均値でみると、いずれの場合も減少している(果物類を摂取していない者の割合:片側P値<0.001、果物類を100g以上摂取している者の割合:片側P値<0.001、果物類を200g以上摂取している者の割合):片側P値<0.001、果物類の平均摂取量<0.001)。

(2)データ等分析上の課題
・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。

(3)その他データ分析に係るコメント

(4)最終評価
・最終値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。

○悪化している

D

(5)今後の課題及び対策の抽出
・最終評価を踏まえ、今後強化・改善等すべきポイントを簡潔に記載

果物だけで摂取量の増加を目標としても果物摂取増加により、他の食品の摂取量に変化してしまうこともある。果物摂取と野菜摂取の両方を含んだ目標値を設定し、摂取量の少ないセグメントを抽出し、重点的に対策を立てるのが必要であると考え。

分野:がん			
(再掲)目標項目:9.5 脂肪エネルギー比率減少			
目標値	策定時のベースライン値 (H9年国民栄養調査)	中間評価 (H16年国民健康・栄養調査)	直近の実績値 (H21年国民健康・栄養調査)
20～40歳代 25%以下	27.1%/日	26.7%/日	27.1%/日
コメント			
(1)直近値に係るデータ分析 ・直近値が、目標値に対してどのような動きになっているか、留意点を含み分析	経年変化を踏まえたベースライン値と現状の分析、特徴(性、年齢、項目別の分類など)を踏まえた分析 ○変わらない(片側P値=0.50)。		
	(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。		
(3)その他データ分析に係るコメント	○男性より女性で高い。 ○男女とも20歳代、30歳代では変わらない。 ○直近値の20～40歳代では、男女とも20歳代で最も高く、男性で27.6%、女性で29.1%。 ○脂肪の供給食品は、肉類とドレッシング等の油脂、調味料で約5割を占め、この10年間で変化はない。		
(4)最終評価 ・最終値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。			
(5)今後の課題及び対策の抽出 ・最終評価を踏まえ、今後強化・改善等すべきポイントを簡潔に記載	○脂肪エネルギー比率が30%以上の者の割合は、男女とも20歳代で最も高く、この世代へのアプローチが必要である。		

分野:がん			
(再掲)目標項目:9.6 飲酒対策の充実			
目標項目:5.1 多量に飲酒する人の減少(多量に飲酒する人の割合)(注:多量飲酒=1日平均純アルコール60gを超えて飲酒)			
目標値	策定時のベースライン値 (H8年度健康づくりに関する意識調査)	中間評価 (H16年国民健康・栄養調査)	直近実績値 (H21年国民健康・栄養調査)
a)成人男性 3.2%以下	4.1%	5.4%	4.8%
b)成人女性 0.2%以下	0.3%	0.7%	0.4%
目標項目:5.2 未成年者の飲酒をなくす(飲酒している人の割合)			
目標値	策定時のベースライン値 (H8年度未成年者の飲酒に関する全国調査)	中間評価 (H16年度未成年者の喫煙及び飲酒行動に関する全国調査)	直近実績値 (H20年度未成年者の喫煙及び飲酒行動に関する全国調査)
a)男性(中学3年) 0%	26.0%	16.7%	9.1%
b)男性(高校3年生) 0%	53.1%	38.4%	27.1%
c)女性(中学3年) 0%	16.9%	14.7%	9.7%
d)女性(高校3年生) 0%	36.1%	32.0%	21.6%
目標項目:5.3 「節度のある適度な飲酒」の知識の普及(知っている人の割合)			
目標値	策定時のベースライン値 (H13年国民栄養調査)	中間評価 (H15年国民健康・栄養調査)	直近実績値 (H20国民健康・栄養調査)
a)男性 100%	50.3%	48.6%	54.7%
b)女性 100%	47.3%	49.7%	48.6%
コメント			
(1)直近値に係るデータ分析 ・直近値が、目標値に対してどのような動きになっているか、留意点を含み分析	経年変化を踏まえたベースライン値と現状の分析、特徴(性、年齢、項目別の分類など)を踏まえた分析 未成年者の目標値で改善が見られるものの、3項目のどれも目標値に達していない。多量に飲酒する人、節度のある適度な飲酒の知識がある人の割合は横ばいまたはわずかに増加している。		
	(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。		
3つの項目は目的が異なるので、一緒に議論するべきではなく、それぞれの項目として議論したほうが良い。			

<p>(3) その他データ分析に係るコメント</p>	
<p>(4) 最終評価 ・最終値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。</p>	
<p>(5) 今後の課題及び対策の抽出 ・最終評価を踏まえ、今後強化・改善等すべきポイントを簡潔に記載</p>	<p>アルコール摂取を健康との関連においてどのように位置づけ、正しい知識の普及、行動の普及を目指すのか、のわかりやすいスキーマを考える必要があると思う。</p>

分野:がん

目標項目:9.7 がん検診の受診者の増加(検診受診者数)

目標値 指標の目安【検診受診者数】	策定時のベースライン値 (H9年健康・福祉関連サービス需要実態調査)	中間評価 (H16年国民生活基礎調査)	直近実績値 (H19国民生活基礎調査)
a)胃がん 2100万人	1401万人	1777万人	2159万人
b)子宮がん 1860万人	1241万人	1056万人	1086万人
c)乳がん 1600万人	1064万人	842万人	868万人
d)肺がん 1540万人	1023万人	1100万人	1832万人
e)大腸がん 1850万人	1231万人	1432万人	1844万人
コメント			
経年変化を踏まえたベースライン値と現状値の分析,特徴(性、年齢、項目別の分類など)を踏まえた分析			
(1)直近値に係るデータ分析 ・直近値が、目標値に対してどのような動きになっているか、留意点を含み分析	<p>○対象部位毎に変化の程度は異なるが、最近の同じ調査の結果を見ると全て、増加している。</p> <p>○胃がん、肺がん、大腸がんについては、数百万単位で受診者数が増加したが、子宮がん、乳がんについては数十万の増加であった。</p> <p>○各検診の受診率をみると、 ・胃がん:目標値2100万人(2007年成人人口の20%)、中間評価 17.2%、直近実績値 20.7% ・子宮がん:目標値1860万人(2007年成人女性人口の34%)、中間評価 19.8%、直近実績値 20.1% ・乳がん:目標値1600万人(2007年成人女性人口の30%)、中間評価 15.6%、直近実績値 16.1% ・肺がん:目標値1540万人(2007年成人人口の15%)、中間評価 10.7%、直近実績値 17.6% ・大腸がん:目標値1850万人(2007年成人人口の18%)、中間評価 13.9%、直近実績値 17.7%</p>		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。			
(3)その他データ分析に係るコメント	<p>○国民生活基礎調査は質問票による調査であり、ここで目標としているがん検診受診者数・受診率を正確に反映できているかどうか懸念がある。市町村の提供する検診、事業所の提供する検診、人間ドックの検診も含め、目標としている検診を明確に定義し、その数値を把握できる仕組みを作ることが第一歩であると考え。また、受診率向上だけでなく、有効性がある検診の定義、精度管理、受診率向上とセットで考えるべきであり、それぞれエビデンスに基づいた方法でアプローチすべきである。</p>		
(4)最終評価 ・最終値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。	<p>○全体として目標を達成した(ベースラインの調査と異なる調査結果を踏まえた評価となるが、胃がん、肺がんについては指標の目安を達成しており、大腸がんについてもほぼ達成した。但し、子宮がん、乳がんについては、目標の半数程度にとどまっている。)</p>		B
(5)今後の課題及び対策の抽出 ・最終評価を踏まえ、今後強化・改善等すべきポイントを簡潔に記載	<p>○アウトカム指標としてはがん登録データを活用する必要があるのではないか。がん検診受診者の増加→早期がん発見者数の増加に結びついているのか、死亡者数の減少につながっているのか、検討すべきでないか。がん検診で要精検者が何%受診しているのか、正診率など、きちんとした分析結果に基づいて考察すべきでないか。</p> <p>○同様の調査でフォローアップ可能であるが、がん対策計画の目標(受診率)との整合を検討すべき。受診率のデータもあるので、それも考慮して評価すべき。</p>		